

流域懇談会における各委員の ご意見とその対応

河川整備計画全般、その他について

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
1	基本理念と改正された河川法の3つの柱とどのように整合しているのか。	第4回	河川整備計画は、治水・利水・環境にバランスがあり、総合的に達成できるように定められている。	計画 P1
2	常願寺川に関心を持ち研究しているのは常願寺川が「暴れ川」だからであり、この川でいろいろな試みをしつつ治めることができれば他の川も大抵治められるものと考えている。このような観点からも「暴れ川」という言葉は入れて欲しいと思う。	第2回	河川整備の基本理念に記載した。	計画 P1
3	基本理念の「水と石を礎に」が具体的に何を指しているのかが分からない。なくても良いのではないか	第4回	基本理念の表現から削除することとしたい。	計画 P1
4	「水と石を礎に」というのは分かりづらいと思うが必要か。	第4回		
5	扇端部(扇頂部から富山駅あたりを半径とした辺)から下流では勾配は緩やかである。この扇端部には湧水地帯が形成されており、扇状地の地形と河川勾配が関係していると思っている。このような地形的な見方も河川整備計画において必要と考える。	第1回	「河川の現状と課題」の「河川環境の整備と保全に関する事項」及び「河川環境の整備と保全に関する目標」の「河川環境の保全。流域内の生物の生息・生育環境の連続性の確保」において記載した。	計画 P42 計画 P57

河川整備計画全般、その他について

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
6	「常願寺川らしさ」の意味がはっきりしない。急流河川・暴れ川という点の他にもっと「らしさ」をだせないか。	第3回	「河川環境の保全、流域内の生物の移動の連続性確保」、「水防管理体制の強化・充実」、「地域と連携・協働する河川管理」など常願寺川の特性を踏まえた整備メニューを記載した。河川整備計画のもと実践してまいりたい。また、さまざまな場を通じて常願寺川に対する地域住民の皆さんの理解が深まるよう努めてまいりたい。	計画 P65 ～ P67 計画 P69 ～ P71 計画 P82
7	住んでいる地域によっては常願寺川が急流だとは、思っていない。安全神話があり、そう思っている人が大半なので、整備計画を理解してもらう必要がある。「らしさ」は、もっとはっきりさせていくと良い。	第4回		
8	上流のカルデラには興味があるが、下流の河川に親しみを持ったり、興味や意識を持っている人がどれくらいいるのか。歴史的なことを含め、もっと「らしさ」を強調して、どのようにみんなに理解して、親んでもらうのかを考えていく必要がある。貴重な魚もいるらしいが、ヤブに覆われているので見たことがない。	第4回		
9	河床が安定しているので、大規模洪水により堤防の管理のあり方がこの河川の課題になっているのに、今の状況を「荒廃河川」と呼ぶとかえって分かりにくくなるし印象が違うと思う。	第4回	上流域から河道への土砂流出が著しいことなどから荒廃河川と呼んでいたが、河道への土砂供給については抑制されてきたことから本計画では「荒廃河川」という言葉を使用しないこととしたい。	—

河川整備計画全般、その他について

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
10	河川整備計画を皆さんに知ってもらうためにはフォローアップ作業を実施し、その実行、効果のあるやり方を判断してもらわなければならない。	第4回	河川整備計画のテーマに応じて有識者の指導等を得ながら効果的にフォローアップを検討していく。	
11	危ない川という認識はあっても明確に分かる資料となっていないので、素人でも分かりやすい言葉での説明があった方がよい。用語が難しいので注釈をつけてはどうか。	第4回	用語の解説を追加したい。	巻末
12	意見聴取等をするときには、本来聴くべき住民の声を拾うのが最大の目的である。そのための掘り起こしていくアンケート方法は捨てがたい。例えば、ボランティア等を活用して一人一人家を訪ね、各年代別に意見を集めることを考えたらどうか。	第4回	自治会回覧を行いアンケートの収集等を行った。また現地見学会については、時期をみて各種モニター会議などと連携して今後行って行くこととしたい。	—
13	アンケート調査やインターネットによる方法もあるが、百聞は一見にしかずで、主要な箇所を見学して、きちんと説明すれば、たくさん回らなくても十分にいろいろな意見を聴取することができると思う。	第4回		
14	市町村の区長会というのがあると思うので、そのような会を使って説明すれば地域住民のいろいろな意見がとれると思う。	第4回		

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
15	大転石や佐々堤などの説明がのっているが、有名なものの他にも、農民が辛苦してつくった堤防が150m残っていたり、小さな供養塔等もたくさんあるので、もう少し勉強して紹介いただきたい。	第3回	測量等を行った結果をご報告したい。「河川の現状と課題」の「水害の歴史」及び「歴史的な治水・利水施設、文化施設」において記載した。	計画 P17 計画 P50
16	安政の大地震後、「災害防除の堤防の自普請」という農民たちが自ら作った堤防が現存しているので、正確に調べてほしい。	第4回		
17	大日橋では、昔より河床が10mあがったが、タワーエクスカベーターで掘削した。安政の大地震前の河床高を調べるなどして、地震前と現在で、この位河床が上がったと示してはどうか。昔の古いデータを基に、安政の大地震以前の河川の状況について、やさしくわかりやすく伝える必要がある。	第3回	安政の大地震以前の河道や前後の河床高について、調べた資料を「河川の現状と課題」の「水害の歴史」で記載した。	計画 P17 ～ P18
18	鳶崩れ以前の河床高について、現状と課題の中に記載したらどうか。	第3回		
19	常願寺川は「暴れ川」というより「荒廃河川」というイメージがある。上流で土砂の流出を抑えているので、何とかもっている川であるということが認識されていないと思う。そういうことをしっかり訴えて、仕事の必要性が認識されるようにしていくべきである。	第3回	「河川の現状と課題」の「水害の歴史」、「急流河川常願寺川の土砂動態の解明」において記載した。また、地域住民の方々からの意見聴取等にあたり映像やパネル等を用いて紹介した。	計画 P18 計画 P28

洪水による災害の発生防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
20	常願寺川のような大きな流域では相当長い間降り続かないと大洪水にはならないと思う。短期集中豪雨なのか、前線性なのか、台風による降雨で出水する型なのか、土砂がわっと出る洪水にはもろいとか、もっとくわしく説明していく必要がある。7月28日の小矢部の出水は、2時間で240～250mm降った。本当に1/150確率の確率で大丈夫なのかという視点で聞かれる方も多いと思う。	第3回	「河川の現状と課題」の「水害の歴史」、「河川整備計画の目標」の「減災への取り組み」において記載した。	計画 P20 計画 P56
21	佐々堤は、昔の霞堤の天端だった。昔の河床は相当低かったということを提示すべきではないか。	第3回	「河川の現状と課題」の「治水事業の経緯」において記載した。	計画 P21
22	前田の殿様が植えた「殿様林」についても記載された方が良く思う。	第3回		
23	デ・レーケによる白岩川の分離工事により、現在の常願寺川河口左岸地区についても河口砂州の影響で浸水被害が多くなっていると思う。	第3回		
24	堤内地の話があまり出てこない。堤内地がどうだから、こうしようという話をするとうい。本文には、そういった点も踏まえて整理すると一般にも理解しやすいと思う。	第3回	堤内地の状況などについて、「常願寺川流域等の概要」「河川の現状と課題」へ記載した。	計画 P24 計画 P33
25	堤内地の状況についても触れておくべきである。	第3回		

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
26	大洪水だけでなく中小洪水時も実際に発生しており、このような危険な川であるということが発信されていないとすれば非常に問題だと思う。	第2回	「河川の現状と課題」の「急流河川特有の流水の強大なエネルギーに対する堤防等の安全性確保」において記載した。	計画 P24
27	河口の砂州が排水路の排水に影響を与えていると考えられることから、河口付近の土砂を安定して排除できる研究も必要ではないか。	第2回	「河川の現状と課題」の「洪水の越流・浸透に対する河川整備の状況」、「河川整備計画の目標」の「急流河川常願寺川の土砂動態の解明」において記載した。	計画 P26、 P31 計画 P56

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
28	上流から流れて来た土砂が河口部で堆積する傾向にあることを示しており、河口部では流下能力(洪水を安全に流すために必要な川の器)が不足している可能性もある。また、現在河床高が低い箇所でも大洪水になれば上流から流れてくる大量の土砂によって河床が再び高くなることも考えられる。このような観点からも常願寺川においては洪水時の流量とともに土砂の問題も大変重要であり十分調査する必要がある。	第2回	「河川の現状と課題」の「洪水の越水に対する河川整備の状況」、「急流河川」常願寺川の土砂動態の解明、「河川整備の実施に関する事項」の「堤防の量的整備、河道掘削(洪水の越水・浸透への対応)」及び「河川調査(河床変動メカニズムの解明)」において記載した。	計画P 26 計画 P28～ P31 計画P 62 計画 P77
29	河口付近は勾配が非常に緩いため土砂がどうしても溜まる。大洪水の際に土砂が押し流されればよいが、実際にどのように作用するか調査、検討していく必要がある。整備計画の中で反映されなくても、地震等が起こり、計画が変わることもあり得る。そのためにも流量だけでなく土砂についても検討しておく必要がある。	第2回		
30	河口部は流れが緩くなっているため、川の器を確保するために川幅を広げても再び土砂が堆積し、元の川幅に戻ってしまう恐れがある。そのため、流れが堆積土砂を押し流し維持可能な川幅について十分検討した方がよい。	第2回		

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
31	タワーエクスケーターでの掘削量と昭和44年洪水後の河床を比較すれば、洪水によって河口部に堆積したおおよその土砂量が把握できるので検討願いたい。	第2回	「河川の現状と課題」の「急流河川」常願寺川の土砂動態の解明において記載した。	計画 P28- P29
32	霞堤は常願寺川において非常に重要な施設であり、それぞれ霞堤の効果等について整理しておく必要がある。	第2回	「河川の現状と課題」の「霞堤の現状」において記載した。また、事務所HPでも霞堤の役割を紹介している。	計画 P32
33	霞堤の位置など、もっと広く人々に説明(啓蒙)したほうが良い。	第3回		
34	霞堤は現存していることが川の治水対策として大事であるため、遊水機能と二線堤は一緒に考えて分けない方が良くと思う。	第3回		
35	整備計画本文には、左岸側の破堤状況について人口や資産を考慮すれば当然かもしれないが、いわゆる富山市の断面や絵が多い。右岸は危険がないのかと感じてしまうので、右岸側の写真等も増やしてほしい。	第4回	左岸側における氾濫区域及び到達時間の関係図を記載した。	計画 P33

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
36	減災への取り組みとしてハザードマップ等いろいろな情報を活用することが重要である。一方、「防災ネット富山」などインターネットを用いた情報では見ることが出来ない人がまだ多く、このような方にも情報が伝わるような方法を考えていく必要があるのではないか。	第2回	「河川の現状と課題」の「減災の取り組みの「防災情報伝達ルート拡大や伝達迅速化」及び「河川整備の実施に関する事項」において記載した。	計画 P33～ P34 計画 P72～ P73
37	常願寺川では安政5年の大崩壊やS44年の大出水等が示すよう土砂流出が大きな問題となることから整備計画においても砂防事業との連携について十分考慮されたい。	第1回	「河川整備の目標」の「急流河川常願寺川の土砂動態の解明」において記載した。また、砂防事業と連携して取り組むべく、「土砂モニタリングと総合土砂管理」で記載した。	計画 P56 計画 P74
38	常願寺川のような急流河川の実状において安全な地域づくりという観点が非常に重要なポイントとなる。このような状況を踏まえ、河川整備計画のなかでも堤防や護岸をどう整備するかが非常に大事なこととなる。	第1回	「河川整備の実施に関する事項」の「急流河川対策」において記載した。	計画 P59～ P61

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
39	「急流河川対策「急流河川」特有の流水の巨大なエネルギーに対する堤防の安全確保のように、「堤防の質的整備」についても抽出箇所の説明をもう少し丁寧に書いた方がわかりやすくなると思う。河川整備計画自体、堤防にさわるのがメインなので、詳しく書かないと分からないと思う。	第4回	「河川整備の実施に関する事項」の「堤防の質的整備（洪水の越流への対応）」において記載した。	計画 P63
40	現在の技術では不確かな部分があって踏み込めていないが、堤防や護岸という川の構造物の安全性を担保するためにはどういうことをやらなければならないのか、現状の安全度はどの程度なのか、今後の対策等、具体的なところを調査研究していく必要があると思う。	第4回	「河川整備の実施に関する事項」の「サイクル型維持管理の実施」、「河川の調査（監視）」において記載した。	計画 P69 計画 P76

洪水による災害の発生の防止又は軽減に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
41	大地震が発生し、再び大量の土砂が流出する可能性も考えられることから砂防事業に加え常願寺川も土砂を貯められるようにしておくべきではないか。	第2回	「河川整備の実施に関する事項」の「土砂動態のモニタリングと総合土砂管理」及び「避難訓練等（大規模地震等への対応）」において記載した。地震や大洪水などによる大規模な土砂流出への対応、流砂系全体の土砂供給など、総合的な土砂管理計画を立案していく上で重要な視点であると考えている。	計画 P74 計画 P79
42	常願寺川公園付近が未だ天井川区間として残っているが、この箇所を掘削すれば河口付近に堆積する土砂の問題が解決するのではないか。	第2回		
43	雨の集中による土石流の発生やカルデラ内の堆砂も課題であり、砂防・土石流にも対応していくことも大きな問題である。立山砂防との調整・意見交換を進めて欲しい。	第3回		
44	河川整備計画の大きな柱の1つとして、ある土砂が大量に流下したときの影響を想定した総合土砂管理を考えていく必要がある。	第4回		
45	横江の堰堤やその上流にある砂防堰堤に貯められた土砂を海岸の危険な箇所に補給できないか。海岸には、テトラポットの離岸堤があるが、砂が供給されないため、砂浜が回復していない。離岸堤の裏には、5～6mの深掘れも発生している。平野部の災害に関しては、安全になってきたと思うが、砂防堰堤の土砂をとって復活させるというような効率のよい常願寺川の総合土砂管理を検討してほしい。	第4回		

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
46	流況について、(水利権を円グラフで表記すると)発電用水が非常に多いと感じてしまう。水利模式図で納得したが、発電用水は反復利用されており、農水等に利用されている点をもっとわかりやすく説明するとよい。	第3回	「河川の現状と課題」の「水利用」において、取水量を用いず水利件数として表示し、発電の常時使用水量も含めて記載した。	計画 P35
47	水利権を円グラフで表記した図については、誤解のないよう表記に注意してほしい。円グラフは許可水利権を示したものだが、この表現だと発電の占める割合が大きく(実際は反復利用が多いのに)悪い印象を与えてしまう。	第3回		
48	流量をボリュームで表現し、完全に消費する水量としない水量を分けてみたらどうか。	第3回		

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
49	維持流量については利水および環境面でいろいろ関わってくることであり、是非議論していただき、長期的な方向性を見いだすことが大切である。	第1回	「河川の現状と課題」の「流況」、「河川整備計画の目標」の「流況の改善」及び「河川整備の実施に関する事項」の「正常流量設定に向けた調査」において記載した。	計画 P38 計画 P57 計画 P80
50	生態系に関しては、川の水量が少ないときが重要である。これは、川にとって必要な水量(維持流量)を流す必要があり、水利権の調整も必要となってくる。	第1回		
51	整備計画においても正常流量を確保する区間を明記し、その上で上流側の伏没還元のメカニズムの解明が検討課題あるという表現に訂正すること。	第2回		
52	減水区間では水が伏没してしまうが、この伏没する水に依存する生物もいることから伏没のメカニズムの解明に関しても研究を進めて欲しい。	第2回		
53	常願寺川の河床低下に伴って、農業用水との連結が問題となる箇所はあるか、あるとすればどの程度か。	第1回	「河川の現状と課題」の「生物の生息・生育環境の連続性」において記載した。	計画 P49
54	良好な水質の維持については、「利水」に入れていてもよいが、「環境」の中でも水質には触れてはどうか。	第3回	「河川整備の実施に関する事項」で「河川環境の保全、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保」の中でも記載した。	計画 P65
55	整備計画本文の「スポーツの盛んな～」等は、環境の項目に入れずに利水に入るのではないかと思う。	第4回	他の河川整備基本方針・河川整備計画でも環境において整理されているため、並びをとることとしたい。	—

河川環境の整備と保全に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
56	常願寺川の河床は大きな礫でかつ、勾配も急なことから少ない水量だと伏流(河床の下に水が潜って流れる)してしまう。これは生き物にとっては重大なことであり、この点も課題である。	第1回	「河川の現状と課題」の「流況」及び「河川整備の実施に関する事項」の「正常流量設定に向けた調査」において記載した。	計画 P39 計画 P80
57	微生物等による自浄作用が良好な水質を維持しているという観点での記載がないので書き込んでほしい。	第4回	「河川の現状と課題」の「水質」において記載した。	計画 P40
58	アジメドジョウは、支川等に生息する事が多く、大河川の本川にたくさんいるのは本来おかしい話である。流量が少ない冬に伏没している河床に入り産卵している。常願寺川では、支流に生息しておらず、本川に生息していることは本来の姿ではないが、現状に合わせてこういう自然が存在していると解釈しておけば良いと思う。	第3回	「河川の現状と課題」の「常願寺に生息する生物の状況」において記載した。	計画 P44
59	今までの横江えん堤には魚道がなかったが、今年度完成するえん堤には魚道があるので、環境に配慮していることを紹介してほしい。	第4回	「河川の現状と課題」の「生物の生息・生育環境の連続性」において記載した。	計画 P49

河川環境の整備と保全に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
60	魚の移動を考えた場合、排水路と常願寺川本川に大きな段差があれば障害となる。この点についても確認しておく必要がある。	第1回	「河川の現状と課題」の「生物の生息・生育環境の連続性」及び「河川整備の実施に関する事項」で「河川環境の保全、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保」において記載した。	計画 P49 計画 P65
61	環境面で考えるとそれぞれの機関の間で管理に関する整合を図る必要がある。	第1回		
62	環境については、現状と課題を踏まえて、河川整備計画でもしっかり書いていくべきではないか。	第3回	「河川整備の目標」の「河川環境の整備と保全に関する目標」及び「河川整備の実施に関する事項」において、「河川環境の保全、流域内の生物の生息・生育環境の連続性確保」において記載した。	計画 P57 計画 P65

河川環境の整備と保全に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
63	学習する素材が多くあるが活用しきれておらず、もったいないと感じる。これらの素材をうまく活用し、現地において体験型の学習ができるような取り組みを進めてはどうか。	第2回	常願寺川フィールドミュージアムの形成」は、新たに施設を造るということではなく、今ある施設、風土資産をネットワーク化していくという考えで、「河川整備の実施に関する事項」の「常願寺川フィールドミュージアムの形成」の中で記載した。また、治水の歴史を深く学べたり、常願寺川の恩恵が体感できよう周遊ルート等の作成に力を入れたい。	計画 P66 ～ P67
64	「河川の歴史読本」等の副読本の他にも富山防災センターの展示室や本宮砂防えん堤下流にある水辺の楽校などの既存施設もうまく活用していくべきである。	第2回		
65	常願寺川には常願寺川公園など大勢の人が訪れる場所があるが、そこに常願寺川が「急流」、「暴れ川」であることや治水の必要性等について啓発する看板等の施設がないのは問題だと思う。	第2回		
66	フィールドミュージアム構想は外でいろいろなものに触れることのできる良い考えである。下流から上流までを、2～3年かけながら子供達が学んでいけるような、勉強の場としていくことも素敵だと思う。	第3回		
67	「常願寺川フィールドミュージアムの形成」について、今日の財政状況で箱物はつくれなと思う。例えば富山防災センターは活用できないのか。	第3回		
68	フィールドミュージアム構想の中で、これからの川として「新しい川のみかた」、「知恵を発揮した点」を打ち出してはどうか。河川が安定しているときに、文化的な魅力をどのように引き出していくかが重要である。	第3回		

河川環境の整備と保全に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
69	フィールドミュージアム構想は非常におもしろいと思う。これを機会にいろいろな事例を踏まえて一般の方々に紹介してほしい。	第4回	説明会などでも、流域の歴史的・文化的資産について紹介する映像を放映した。整備計画のもと実践してまいりたい。	
70	河川空間の利活用にあたっては、歴史的な資源の周辺をあまりきれいに整備しすぎるのもよくないと思う。大転石も、本来はゴロゴロした石の上にあるものだったが、周りをきれいに整備して、庭石のようになってしまったと思う。堤防なども、常願寺川らしさを残しつつ、周りをきれいにし過ぎないように留意してほしい。	第3回	「河川整備の実施に関する事項」の「常願寺川フィールドミュージアムの形成」で記載することとした。	計画 P67
71	水に親しむ(親水)との観点からは不十分であるように思う。新しい河川法では従来の治水、利水に環境も加わったが、河川整備計画ではどう考えるのか。	第2回	「河川整備の実施に関する事項」の「住民のニーズ等に応じた多様な利用空間の創造」で記載することとした。	計画 P68
72	水辺に近づけるところは、水生植物や生き物がいる水辺を子供は喜ぶので、そういったところが大事と思う。	第3回		

河川の維持管理に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
73	河川整備計画では、維持管理の具体的な実施計画を作ることが大事なことと思うが、どこに記載されているか。	第4回	「河川整備の実施に関する事項」の「サイクル型維持管理の実施」、「水防管理体制の強化・充実と防災情報の質の向上、防災情報の伝達の迅速化等」の中で記載した。	計画 P69 ～ P71
74	常願寺川は、維持管理を徹底していくことが非常に重要な河川である。器はあるので、堤防強化とか維持に十分お金をかける必要がある。維持管理の項に、芝刈り等の管理の話はあってもいいが、そこが最重要ポイントではなく、本当は何が一番大事か示す必要がある。	第3回		
75	滲筋が変動し、水衝部、洗掘箇所が常に変化する河川に対して、どのように対応していくのか。維持管理の部分は十分に議論して、お金をかけていく点をしっかりと示す必要がある。	第3回		
76	常願寺川流域の人々だけではなく、富山県民が安心して生活できるのは、国の治水や土砂管理によって安全が保たれているということを一様に広く啓発していただきたい。	第4回	住民意見聴取にて地域の方々にCATVやインターネット等により常願寺川の説明を行った。また、平成21年5月には、常願寺川・神通川連合水防演習の開催を予定しており、その場を通じても防災に対する啓発に努めていく。	—

河川の維持管理に関する事項

主なご意見・ご質問		懇談会	対応	資料
77	河口部左岸側にはヤナギの河畔林が繁茂しているが洪水には流下阻害となることから、環境に配慮しつつ計画的に伐採を行った方がよい。	第2回	「河川整備の実施に関する事項」の「河道・河川管理施設の維持管理」において記載することとした。	計画 P77
78	本来、常願寺川は氾濫による破壊と再生により植生が維持されてきたものである。河川整備の進展とともに、安全なところで樹木が大きく成長していると思う。樹木管理の中で、元来、河川が破壊する樹木・植生を、人為的に補助するという考えで良いと思う。	第3回		
79	外来植物、ヤナギ等の繁茂があるが、伐採計画をしっかりと立てていくことも必要と思う。また、河川管理において伐採した後は、河川敷がきれいになりすぎていると感じる。伐採木や上流から流れてくる流木が河川敷に少し残ることで、生物の良好な生息空間となり、環境としては大事である。ただ、出水期には海まで流れて、漁の網にかかったりする問題もあるので、環境計画としては考えていく必要があるのかと思う。	第3回		